

## ■ 編集委員

池淵 研二\* (委員長)

赤塚 俊隆\* 伊崎 誠一\* 小山 勇\* 仁科 正実 町田 早苗 松下 祥\* 御手洗哲也\*

渡辺 修一\* Chad L Godfrey (\*Associate Editor 兼任, 五十音順)

## ■ Associate Editor

池田 正明 太田 敏男 永井 正規 萩原 弘一 (五十音順)

## ■ 編集後記

大雪が降ったのは先週ですが、今日の陽気は春の訪れを感じさせます。窓からその外の景色を眺めながら編集後記を書き始めています。2月にあった雪の日は道路が凍ってしまい、あちこちで滑って怪我をする人が続出しましたが、今回の大雪は午後から徐々に溶け始め、心配したような事故はなくて済みホッとできました。

本号には山内名誉学長から「すぐれた臨床医」育成についてこれまでの取り組みと今後の展望について論文をいただき掲載させていただくことができました。個人的にですが目を引いた言葉として「高い倫理観と人間性の涵養」があります。教員としてどのように学生と付き合い医師としての素質を育てるための支援をするか、どう取り組むとうまくいくのか、難しいなあ、いつも思っています。また次にある、「すぐれた医師」になるための資質をどのようにして、それぞれの受験生で見分けるかが重要となる」という文章にも注目してしまいました。面接者として毎年受験生と対面していますが、目利きとしてその役割が果たしているかどうか自信がなかなか持てないからです。「すぐれた臨床医」育成に多くの先生方の力が結集することを願います。

今回トピックスとしてタイムリーだったと思いますが、CT被爆について国際医療センター画像診断科の木村文子先生から投稿いただきました。医療者として熟知しておくべき情報を発信していただけたこと、感謝しています。

実は37巻2号からですが新企画として研究室紹介を掲載させていただくようになり、お願いした研究室からは必ず投稿いただける状況となってきました。定着してきたことは嬉しく、投稿いただいた先生方には感謝しています。本号で計14研究室まで紹介させていただけたこととなります。埼玉医大の3つのキャンパス内で研究活動が活発に営まれていることが本誌を読んでもらうと分かるようになりつつあります。さて基本学科は現在約130ありますので全体を紹介するためには、単純計算で毎年2号ずつ発行してもさらに12年間ほどかかることとなります。そこで今回、医学研究センターと協力して研究センターホームページ内にも研究室紹介コーナーを設けていただき、研究室紹介記事を募集することになりました。本誌とホームページと両方で記事が閲覧できるようになりますので、投稿よろしくお願い致します。

(池淵 研二)

## 埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第38巻 第2号

編集責任者

池淵 研二

平成24年3月15日 印刷

平成24年3月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030 (直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>